

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇PVC News No. 100を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

## ■随想

◇芸は身を助く！？（終）

V. 「邦楽考」

日本テントシート工業組合連合会 理事長 泉 貞夫

紫風会 主宰 泉 紫風

## ■編集後記

## ■トピックス

◇PVC News No. 100を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

3月9日に塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は [PVC News No.100](#) を発行しました。今号で発刊100号になりリサイクル特集としました。構成は以下の通りです。

## ◎『PVC ニュース』創刊100号に寄せて

『PVC ニュース』創刊100号の発刊に当たって

塩化ビニル環境対策協議会 会長 角倉 護 氏

塩ビならではの特性や機能性を生かした製品づくりに期待しています。

淑徳大学 人文学部表現学科 教授 北野 大 氏

プラスチックに「廃棄物」という概念はもうない。

そんな気構えでリサイクルに取り組んでください。

上智大学大学院 地球環境学研究科 教授 織 朱實 氏

## ◎100号記念インタビュー

業界の枠を超えたプラスチックの共通仕様化と、情報技術を用いた資源管理を

産業技術総合研究所 上級主任研究員 加茂 徹 氏

循環経済の促進が世界のテーマに。産業界はビジネスチャンスに備えよ

経済産業省 産業技術環境局 リサイクル推進課長 高角 健志 氏

## ◎特集 塩ビリサイクルの3つの動き

(株)照和樹脂の取り組み

塩ビ管リサイクルを土台に多彩な事業展開。異型押出用品コンパウンドが好調

## 大水産業(株)に見る、塩ビ管リサイクルの今

リサイクル管の信頼性向上への多様なチャレンジ。高品質追及ゆえの課題も

## アナン通商(株)の取り組み

遮音シートなど、多様な塩ビ端材を原料に「時代が求める製品」づくりに取り組む

### ◎広報だより

- ・“エコプロ 2016～環境とエネルギーの未来展”に出展
- ・パンフレット発行『「Sustainability」～塩ビが持続可能な社会実現に貢献します～』

掲載記事をご紹介します。

『PVC ニュース』創刊 100 号に寄せて」では、淑徳大学の北野大先生、上智大学の織朱實先生にインタビューしました。

北野先生は、塩ビならではの特性や機能性を生かした新たな製品づくりが大事で、塩ビの耐久性が高いことで長期に使える用途への活用が求められるとの事。

織先生はプラスチックのリサイクルの位置づけについて、廃棄物という概念を捨てて付加価値をつけて資源性が高まれば廃棄物の世界からは卒業させていく、卒業認定という考え方に変わってきているとの事。

「100 号記念インタビュー」は、産業技術総合研究所の加茂氏、経済産業省の高角リサイクル推進課長に登場頂きました。

加茂氏はインタビューの中で塩ビのリサイクルに関わるようになった経緯や塩ビのリサイクル支援制度の評価委員としての感想、これからのプラスチックリサイクルに取り組む上で必要なことなどを丁寧にお話し頂きました。

経済産業省のリサイクル推進課長の高角氏からは循環型社会をめぐる世界の動向と日本の対応、産業界が今後すべきことなどについて語って頂きました。

「特集」では、塩ビリサイクルの3つの動きとして、(株)照和樹脂、大水産業(株)、アナン通商(株)を紹介しています。いずれの会社もリサイクル事業を50年近く営んでおり、リサイクルの老舗です。塩ビ管、壁紙などのリサイクル事業を始めたきっかけや、今取り組んでおられる新しいことなどを紹介して頂きました。

次号 101 号からは年3回の発行になります。

『PVC ニュース』は [JPEC のホームページ](#) から、最新号、バックナンバー共にご覧いただけます。

ご講読を希望される方は、[こちら](#)まで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。

## ■ 随想

### ◇芸は身を助く！？（終）

#### V. 「邦楽考」

日本テントシート工業組合連合会 理事長 泉 貞夫  
紫風会 主宰 泉 紫風

日本は、大和時代・瑞穂の国と称される神代の昔の、その又昔の縄文時代を入れると、一万年という気の遠くなるような時の流れの中で人間の営みを紡いできました。海と山に囲まれた豊かな自然と、国土として程良い広さの島に住む人間の社会は、どんな分野に於いても熟成出来る素地でもあります。

事、音楽に於いても例外では無く、邦楽は今や世界からも注目を浴びています。歌舞伎などは日本の伝統芸として既に有名ですが、音楽の世界でも国際的なエンターティナーとして活躍している邦楽家も多くいます。

国際交流という名目で伝統芸能伝承者として海外で発表の場を設けている邦人も多く、特に、津軽三味線・尺八・和太鼓などの和楽器演奏家の活躍はめざましいものがあり、若手が多いこの分野は、洋楽器とのコラボで現代音楽を演奏することが主流となっています。現代は、聞かせるだけの音楽では無く見せる音楽にもなり、彼らのパフォーマンスDVDを見る限り、「邦楽」という枠には納めきれない感が致します。それもこれもグローバルでユニバーサルな世界が作りだした新しいジャンルと認めざるを得ません。

しかし、邦楽は邦楽です。

邦楽のリズムとは自然界の流れのことを言います。溪流の流れ・雲の流れ・風が木々の間を吹き渡り波が寄せては返す・・・、そんな天然自然、海や大地の動きが邦楽の持つ独特なリズムです。

邦楽の旋律とは人と自然の営みでしょう。人間の機微・四季の移り変わりを表し、音色は心情を表しています。



第54回 江差追分 北信越大会  
(2016年)

民謡には、歌い回しが最も難解と言われる「江差追分」（通称／追分）が有りますが、まさに上記の如くです。喉を絞ったり開いたり、上ずった引き声、腹の底から出すドスの効いた低い声、その声に緩急・強弱をつけて歌詞を唄いますが、その音色（声色）は、まるで波の音・風の音です。海風に吹かれるさざ波の音、岩にぶつかり砕け散る波、船底を軽快に叩く波のリズムで情景を醸し出し、吹きすさぶ風、凍える様な潮風の音で、船乗りの心情を表現しています。それら全てを一人の唄い手が演じこなすのです。

新しいジャンルを開拓し、時代にマッチした音楽を目指す事も自然で大切なことでしょう。しかし、邦楽の原点・魅力が失われたジャンルや洋楽器とのコラボには、日本人の琴線に触れるものが少ないのではないのでしょうか？

津軽三味線演奏は、今や民謡というジャンルを離れ独り歩きしています。同じ演奏家として感じるのは、若手の素晴らしい演奏技術に脱帽・感心するばかりですが、技術やオリジナリティばかりが先行し、核になっている日本の風土や歴史が感じられず、その歌の意味が皆無で感動が伝わらない、昔の弾き手の演奏は音だけで意味も無く涙が溢れてきたものです。

おそらく日本で一番古くから使われていたのは、横笛（篠笛）だったろうと思います。

平安時代の貴族男子のアイデンティティは、着衣に移したお香の匂いと篠笛の音色だったそうです。平敦盛・牛若丸・宮本武蔵のお通さん・武田信玄も戦場で遠くから聞こえる笛の音に誘われ、敵に暗殺されそうになったとか・・・。

小生の篠笛創作曲は、まずは題名から情景を文章にし、即それが曲紹介文となるのですが、その情景を心に留めながら、その場の自然を感じながら、笛で音を探り探り曲を創ります。

邦楽は、日本の歴史や風土や自然に裏付けされた、熟成された芸術なのです。



泉紫風氏

(結)

泉紫風 謝

⇒ [バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

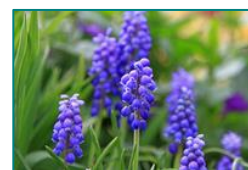
最近は休日の過ごし方が悩みです。

子供の成長とともに子供中心の時間の使い方や過ごし方が変貌し、自分一人でも出来る過ごし方に変えていく必要性を痛感しています。

子供たちが大きくなり一緒に遊んだり過ごす時間は減ってさみしい気もしますが、自分で楽しむことを探さなくちゃ。ふとそんなことを思っている自分の無趣味さに呆れます。ゴルフでも始めようかな。(リマル)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)